



寄居ロータリークラブ 会報

YORII ROTARY CLUB



R.I.会長
ステファニー・A.アーチック
第2570地区ガバナー
五十幡 和彦
第4グループガバナー補佐
柴崎 猛

令和6年 11月13日(水)
会場 Spark (寄居町商工会)

第2747回例会

司会 清水 雄一郎 (SAA)
点鐘 松本 幸男会長 (12:30)
ソング 君が代、奉仕の理想

お客様 2025-26 年度派遣グローバル補助金

奨学候補生 中村 悦子様
米山奨学生 史 楠さん

1. 会長の時間

松本 幸男さん

皆さん、こんにちは。先日11月2日に豊田康業さんのご尊父、豊様が逝去され、ここに謹んでお悔やみ申し上げます。



るとともに、ご冥福をお祈りします。

さて、先月11月2日、3日には寄居秋祭りでした。正式名称は「宗像神社秋季例大祭」と言います。みなさん、お祭りには出かけたでしょうか。というのも、高田徹さんが炉辺

談話の時のニコニコで2日3日はお祭りがあるので皆さんよろしくと言っていました。今年度の年番町は、中町で年番町の代表として当会員の高田徹さんがこのお祭りを仕切っており、本当に素晴らしいお祭りでした。大変お疲れ様でした。パスト会長の津久井さん、副会長松本則之さんも参加しており、私はロータリーの関係で少しの参加となってしまいましたが、盛大に無事執り行われたことをご報告します。

そして寄居秋祭りと同日の3日、柴崎猛さん、安齋さん、赤坂さん、下条さんと私で、毎年東松山で行われている3 Day マーチに参加してきました。中村さんも参加していましたね。これは5キロを歩くもので、東松山第1小学校から森林公園の南口までです。5キロぐらいたって走って行こうかなというぐらいの気持ちだったのですが、5キロって長いんですね。南口まで5キロで、そこからまたロータリーの集合場所まで少しありました。その少しが、案内板では750mほど？約1キロはあったような気がします。ですから全部で6キロくらい歩いたのかなと思います。とてもいい運動になり、本当に晴れ晴れした気持ちになりました。次回、下条年度のときには10人ぐらい参加してい

ただければと思います。是非よろしく願います。皆様からお預かりしたポリオの寄付金もしっかりと納めましたので、ご報告します。

またつい先日の10日のふるさとの祭典市では、サンマ焼きから寄居の豚肉の食文化であるホルモン焼きに変わりましたが、こちらも大好評でした。当日参加された会員の皆様には、ふるさとの祭典市、ホルモン焼の担当責任者として心より感謝申し上げます。ありがとうございました。お客様の人数すごかったですね。紙コップに半分ほどの量を100円で売りましたが、次年度は紙コップいっぱいにして200円で販売すれば中身の見栄えはより良いのではないかと感じました。どちらにしても大盛況でしたので安心しました。皆様ご協力ありがとうございました。

さて本日は、卓話者として2025-26年度派遣、グローバル補助金奨学候補生、中村悦子様にお越しいただいています。皆さん大きな拍手をお願いします。スポンサークラブは羽生ロータリークラブです。中村さん、ようこそ寄居ロータリークラブへ。卓話を楽しみにしていました。よろしく願いいたします。中村さんにたっぷり時間をかけたいので、会長の時間、本日はこれで以上です。ありがとうございました。

2. 幹事報告

下条 誠さん

皆様、改めましてこんにちは。早速ですが幹事報告をします。本日第1例会ということで、11時から理事会がありましたので、理事会報告をします。



理事会の方では、11月、12月のプログラムの件、12月4日の年次総会、新会員について、12月18日のクリスマス会、1月22日の優良従業員表彰（これは後ほど委員長から報告があると思います。）このような議事等を審議しました。

次に11月24日の地区大会についてですが、行田市の

ベルプラスに12時に集合です。駐車場がありませんので、できれば乗合いで来て下さいという案内がございましたので、参加される方はできるだけ乗合いをよろしくお願いします。

次に、12月7日の街路樹清掃です。Yottecoに10時集合です。清掃用具を持参してください。ハウキと塵取りぐらいの持参をお願いできればと思います。ゴミ袋はこちらで用意できればと考えています。街路樹清掃についての出欠をこれから回覧しますので、出欠の記入をよろしくお願いします。

次に、先ほど申し上げました新会員についてです。今回待望の女性の方からの申し込みがありました。この方は理事会で審議し、入会を承認することになりましたので、ロータリークラブ細則、第4節に従って、この方の情報が記載された会員推薦用紙がありますので、会員に掲示させていただき、7日以内に会員の誰からも推薦に対して理由を付した書面による異議がなかった場合は、入会金を納めることにより会員に選ばれるものとする、という細則ありますので、これを後ほどホワイトボードに掲示しますのでご覧いただき、万が一異議等があるようであれば、書面でお申し出ください。
幹事報告は以上となります。ありがとうございました。

理事会報告

- ① 11、12月のプログラムについて
- ② 12／4 年次総会、理事の就任について（下条幹事）
- ③ 新会員について
- ④ 12／18 クリスマス忘年会について
- ⑤ 1／22 優良従業員表彰について（品物）
- ⑥ マイロータリー アカウント登録のお願い
- ⑦ ロータリータスキ新調について
- ⑧ その他

3. 委員会報告

(1) プログラム委員会 松本 則之さん
(月間目標) ロータリー財団月間

	日	曜	委員会活動	担当	備考
11月	6	水	休 会		祝日休会
	10	日	ふるさとの祭典市 (ホルモン焼き)	社会奉仕委員会	SPARK前 9:00集合
	13	水	理事会、誕生・結婚祝 卓話2025-26グローバル 補助金奨学生候補 中村悦子さん(羽生)	会長・幹事 財団	
	20	水	休 会		11/10振替休会
	24	日	地区大会 行田産業文化会館		12:00集合
	27	水	休 会		11/24振替休会

(月間目標) 疾病予防と治療月間

	日	曜	委員会活動	担当	備考
12月	4	水	理事会、誕生・結婚祝 年次総会	会長・幹事	
	7	土	街路樹清掃	社会奉仕委員会	Yotteco 10:00集合
	11	水	休 会		12/7振替休会
	18	水	クリスマス忘年会 18:00点鐘	親睦・SAA	会場:料亭 園 バス:17:40 北口ロータリー
	25	水	休 会		年末休会

(2) 出席推進委員会 山口 正彦さん

例会日	総員	欠席	出席	MU	出席率
11月13日	37	6	31	1	86.49%
10月 9日の修正出席率					83.78%

(3) 職業奉仕委員会 高田 徹さん

来年1月22日に優良従業員表彰を行います。お手元に優良従業員推薦書を配布しましたので、本年度は会員事業所従業員に限らず、地元で活躍されている方も推薦ください。推薦書は来月12月16日(月)までに提出ください。以上です。

(4) 社会奉仕委員会 権田 功さん

先ほどご案内がありましたが、12月7日(土)街路樹清掃がありますので、よろしくお願いします。
また、12月4日(水)の午後2時から1F会議室でエコキャンプの反省会を含めた合同会議を行いますので、出席をお願いします。

(5) ニコニコボックス委員会 荻野 真仁さん

松本 幸男さん 中村悦子様 本日の卓話たいへん楽しみにしておりました。世界平和のためご尽力いただきありがとうございます。本日はよろしくお願いいたします。
多めにいただきました
松本 幸男さん 楠ちゃん、本日もお元気そうでなによりです。楽しんで行ってね!!
下条 誠さん 中村悦子様、本日の卓話楽しみです。本日もよろしくお願いします。
松本 則之さん 中村悦子様、ようこそ寄居RCへ。卓話楽しみにしています。
松本 則之さん ドジャース大谷翔平、ワールドシリーズ優勝おめでとうございます。
吉野 泰久さん 何かねえかな。皆さんお元気そうで幸せそうな顔をしますね。俺も幸せですよ!

佐橋 正行さん 中村悦子さん、寄居RCへようこそ。卓話よろしくお願いします。

浅見 克一さん 里山に今年も柿木に黄色い実がなつて、木が今にも折れそうです。秩父地方ではこれを身の程知らずと別名で呼んでいます。我が身に対する反省の言葉のようです。

山口 正彦さん 本日の卓話、中村悦子様、宜しく願い致します。

鈴木 光則さん ふるさとの祭典市お疲れ様でした。私事です、沢山お買い上げ頂き、ありがとうございました。

柴崎 猛さん ふるさとの祭典市、大盛況でした。ホルモンも大人気でした。大変お世話になりました。

柴崎 正さん 中村悦子さん、卓話よろしくお願いします。又、ふるさとの祭典市、ホルモン焼きに参加の皆さん、お疲れ様でした。会長のリードよろしく、紅葉の軽井沢並みの行列を捌き格好よかったです。

清水 浩一さん 中村悦子さん、寄居RCへようこそ。卓話楽しみです。

清水 浩一さん トンボ公園だよりNo.1 4 2とトンボ自然館まつりチラシを配らせていただきました。ご一読及びご来場いただけると幸いです。

加藤 祐司さん 中村悦子さん、ようこそ寄居RCへ。本日の卓話、楽しみにしております。

安齋治一郎さん 中村悦子様、ようこそ寄居RCへ。たっぷり時間がありますので、今までの事、これからの事などお話しください。

津久井大雄さん 祭典市では皆様お疲れさまでした。本日寄居町合同慰霊祭の為、早退します。

赤坂 匠康さん 中村悦子様、スリーデーマーチでは大変お世話になり、ありがとうございました。本日の卓話、とても楽しみにしていました。どうぞよろしくお願いします。

橋本 則彦さん 中村悦子さん、ようこそ寄居RCへ。卓話よろしくお願いします。

森田 淳一さん 昨日さいしん会ゴルフ優勝したとの事を聞きましたが、最後まで出ていなかったの、出席された方、申し訳ございませんでした。

吉田 昌弘さん 中村さん、史楠さん、本日はどうぞよろしくお願い致します。

小鮎 哲夫さん 中村さん、史楠さん、ようこそ寄居RCへ。今日はよろしくお願いします。

小鮎 哲夫さん 前回欠席でした。またよろしくお願いします。

高田 徹さん 奨学候補生 中村さん、ようこそ寄居RCへ！！本日は宜しく願いいたします！ **多めにいただきました**

権田 功さん 各地の紅葉も深まってきた今日この頃。体調管理に気をつけましょう。中村様、ありがとうございます。

高倉 隆綱さん 中村悦子さん、ようこそ寄居RCへ。卓話楽しみにしていました。本日は宜しくお願いいたします。

豊田 康業さん 早いもので今年もあと1カ月半となりました。健康に気をつけて、元気に乗り切りたいですね。本日もよろしくお願いします。

豊田 康業さん 先日の父の葬儀では、多くの皆様に見送りいただき、またご協力を賜りまして、ありがとうございました。

押田 大助さん 12月7日は街路樹の清掃作業があります。みなさまのご協力をよろしくお願い致します。

土師 賢一さん 本日も宜しくお願い致します。

清水雄一郎さん 昨日仕事が休みで宝登山へ登山に行きました。約9km歩きリフレッシュしました。道中にロータリーの森の看板も見てきました。

荻野 真仁さん ふるさとの祭典市では、お世話になりました。おかげさまで3万人の来場者を迎え、にぎやかにイベントを終えることができました。来年は記念すべき50回大会なので、引き続きお力添えいただけるとありがたいです。

3. 会員慶事

(1) 会員誕生

佐橋 正行さん、加藤 祐司さん、下条 誠さん、坂本 勝志さん

(2) 婦人誕生祝い

荻野 百合子さん、山口 美智子さん

(3) 結婚祝い

荻野 幸一さん、安齋 治一郎さん、高田 徹さん、権田功さん、押田大助さん

史 楠さん 奨学金の授与



史 楠さん あいさつ

皆様、こんにちは。いつもお世話になっております。
近況報告をします。先月、所沢ロータリークラブに行って、卓話をしました。その時に、副幹事に自己紹介した際、中国江蘇省揚州市出身ですと言うと、彼は所沢市国際友好委員会の代表だと言われました。所沢市と揚州市の隣の常州市は姉妹都市となっています。そのため揚州の隣の常州市によく行きます。そこで、私が所沢西武ワルツにある無印良品でアルバイトをしていることを話すと、私はワルツ社長だとも言われました。びっくりしました。

卒業論文はアンケート調査を準備しているので、文字数はあまり進んでいません。でもこれからも頑張っていきます。

先週日曜日に「寄居のふるさとの祭典市」に参加して、ホルモン焼きは楽しかったです！バナナ春巻きをはじめ食べてみました、とても美味しかったです。中国の春巻きには肉と野菜がたっぷり入っています。最初は普通の春巻きだと思いましたが、食べたら中はバナナでした。とても美味しかったです。また、みなさんと一緒に寄居名物、ホルモンを焼きました。予想よりもたくさんの方が並んでいました。中国語を話した台湾のお客様にも会いました。予想よりかなり早く終わりました。

廣野結花さんとお会いしました。私たちは性格が似ているので、話したいことが尽きないような気がします。実は二人とも内臓はあまり好きではないのですが、匂いも良く、食べて見たらすごく美味しかったです！まさに名物ですね！今後は内臓食も食べていこうと思います。

11月24日の地区大会にも出席します。当日は青少年交流会もありますので、どんな人に会えるか楽しみです。多くの人々と出会う機会を与えてくれたロータリークラブにとっても感謝しています。

卓話

卓話者紹介 安齋治一郎さん

みなさん、こんにちは。財団事業では年次基金、ポリオなど要するに寄付事業のことで。グローバル補助金、地区補助金という補助事業で、もう一つが、このグローバル奨学生の補助です。

今回、中村さんはその奨学生に選ばれた方です。中村さんは2004年国際医療福祉大学卒業後、首都圏の病院に助産師として勤務。2008年から2010年山本助産院で勤務。2010年国際医療福祉大学大学院保険医療学修士課程修了。2010年から2012年、JICAの青年海外協力隊、助産師としてベナン共和国に派遣。その後「国境なき医療団」として様々な海外で活躍された方です。今回、グローバル補助金ですので、もう皆さんご存知かですが、緒方貞子さんなどがおりますので、中村さんもこの後、様々な世界で活躍される方です。ぜひ皆さん、お聞きください。中村さん、よろしくお願いします。

2025-26年度派遣グローバル補助金

奨学候補生 中村 悦子様

皆さま、お時間をいただきどうもありがとうございます。では早速ですが、始めていききたいと思います。



これまでの経験とこれからの目標ということで、私は2025-26のグローバル補助金奨学候補生です。重点分野は母子の健康で候補生にいただきました。スポンサークラブは羽生ロータリークラブさんにお世話になっております。私が今日お話しするのは、自己紹介とこれまでのどんなことをしてきたかということ、これから何をしたいかということをお話できればと思っています。

まず自己紹介ですが、先ほど安齋さんにも少し紹介していただきましたが、小学生の頃に国際協力に興味を持ちまして、本を読んでとても印象的なことがありました。お母さんたちがお産にまつわる本で、大体1日にジャンボジェット機2機ぐらい、約800人の方が毎日亡くなっているというのです。ジャンボジェット機が毎日2機墜落し続けたら大変なニュースだと思うのですが、誰も何も言わない、テレビでもやらない、それなのにたくさんのお母さんが亡くなるなんてひどすぎる、と思い中学生の頃に助産師になろうと思いました。

その後大学で勉強し、日本の病院やクリニックで助産師として働いた後、助産院でお世話になり働いていました。横浜の助産院で働いていたのですが、そこで私はロータリー財団とのご縁をいただいたと、振り返ります。勤務していた助産院の院長先生、山本詩子さんという方は現在、横浜金沢八景ロータリークラブの会長さんをされていて、私が住み込みのような形で働いていましたので、よくロータリーの活動のことを教えてくださり、折に触れて、社会奉仕とか国際理解、平和の理念など、「愛はどれだけ

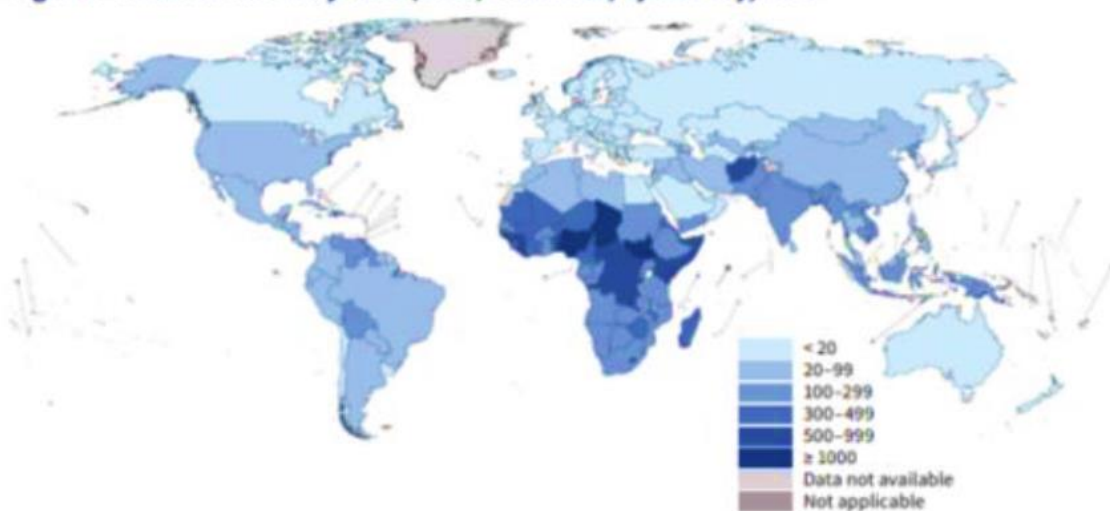
人に分けても減らないからね、中村さん」といつも言われていました。とても貴重な出会いをいただいたと思っています。

それからまたもう一つ運命を変える出会いがありました。徳永瑞子さんとの出会いです。以前、私が小学生ぐらいですから1990年代、「プサ マカシ」という女性ヒューマンドキュメンタリー大賞カネボウスペシャルを受賞された方で、テレビで山口智子さんが主演でドラマにもなっていました。アフリカの今のコンゴ民主共和国、当時のザイールで活動をされていた助産婦さんのお話でした。とても感銘を受けました。ご本人にもお会いしましたが、「ぜひアフリカに行きなさい。特にお母さんと赤ちゃんが苦しんでいるのは紛争地。アフリカでも中央から西にかけて、フランス語圏が特に苦しいのでぜひ行きなさい。」というアドバイスをいただき、そのように進んできました。

年半ほどジュニア専門員という働き方で本部に、その後専門家という形でプロジェクトに参加し、セネガルに2年間、コートジボワールに1年間、保健省の中で働き、お役人をしている助産師さんたちとともに、国の政策を作るというようなことをしていました。

(写真を見て)これは私が国境なき医師団でシエラレオネにいたときの写真なのですが、毎日担当していた6、7個くらいの保健センターをランドクルーザーでジャングルの中を抜けていくのですが、時々川があり、私達はフェリーと読んでいたのですが、フェリーという名の板の上に、ランドクルーザーの車体を乗せてもらい、向こう岸から紐で引っ張ってもらって渡るという状況です。時々現地の人が「気をつけてね、クロコダイルが出るから」と言われて、「気を付けるって、何をどうやって気をつけたらいいのか」と訊ねると、「時々だから大丈夫」と言われました。

Fig. 4.1 Maternal mortality ratio (MMR) estimates, by country, 2020



特に、色が濃いところが、お母さんの死亡率が高いという世界の地図です。右側で少し濃いところがアフガニスタンで、内紛が続いているような国です。これは2020年までの統計なのであまり出てないのですが、今で言うとウクライナも高くなっています。それから主に真ん中にあるアフリカ大陸中央から西の方がお母さんの死亡率が特に高いです。これはお母さんだけではなく、赤ちゃんの死亡率も同じような国がやはり高くなっています。

海外に行こうと海外に向かい、青年海外協力隊では西アフリカにあるベナン共和国、それから国境なき医師団にも参加し、アフガニスタン、ナイジェリア、中東で紛争が起こっていたイエメン、その当時、世界で一番寿命が短い国と言われ、赤ちゃんが1歳までなかなか生きられないと言われているシエラレオネや、内紛が起こっていた中央アフリカ、それから大洋州にある小さな島国のキリバス共和国というところにも行きました。

その後、国際協力機構 JICA が、外務省の実働部隊のような形で国際協力の担い手であるのですが、その中で2

私は幸いワニを見かけなかったのですが、ワニがいる川を渡って反対側の保健センターまで行くというような、そういう毎日を送っていました。





次にこれはアフガニスタンの病院の中です。非常に分娩が多い病院で、現地のお母さんたちが通えるような病院が、まずないということが根本的にあります。それからイスラム教の国ですから、お産が非常に多いということがあります。例えば日本で働いていたときに1ヶ月に100件ぐらいのお産があると、日本では忙しい病院と産科では言うのですが、アフガニスタンのときは1日大体60件のお産がありました。本当にもう手が足りなくて、助産師3人ぐらいで見ているのですが、そこら中で生まれてしまいます。1時間に8人とか言われて、3人しか助産師がいないので、もう本当にどうにもならない、毎日駆けずり回りながら、昼夜そんな日々を過ごしていたアフガニスタンですが、非常にやりがいがありました。ある日、17歳のお母さんが入院してきました。2回目のお産だったのですが、上のお子さんが双子ちゃんで2人ともお家で産もうとして亡くなってしまったそうで、「3人目の赤ちゃんはどうしても助けてほしいので、病院に産みにきました。」と言ってかなり痛がっていたので、私は「痛いよね。」と言って腰をさすっていました。そしたら、そのお母さんが「私に触らないで。」というのです。私はなんかとてもひどいことをしてしまったかなと思い、「ごめんね。痛かった?」「触らないで欲しかった?ごめんなさいね。」と言ったら、そうじゃなくて、いつも家族とか周りの人に臭いとか汚いと私がみんなに言われていて、あなたは私に優しくしてくれた初めての人だから、あなたにまで嫌われるのは耐えられないと言うのです。なんでこんなことになったかと言うと、前回の双子ちゃんのお産のときに、なかなか赤ちゃんが生まれなくて難産のお産をしたときに、赤ちゃんがずっとお産の産道の周りの組織を圧迫してしまうことで、そこが潰滅して穴が開いてしまい、そこに膀胱の通り道とかお通じの通り道と交通ができてしまって、お産が終わった後も塞がらなくなってしまいます。そうするとお小水やお通じが、自分の意思とは関係なく流れて出てきてしまうということが日常的に起こり、家族や周りから汚いとか臭いとか自分の意思では決められない事を、蔑まれるようなスティグマを受けるような扱いを受けてしまう、というとても悲しい事がありました。この方は赤ちゃんが生まれた後に手術をして、その傷を治すことができました。

これはアフガニスタンで私が働いていたところです。とても悲しいのですが、私はこの病院の勤務を終えて日本に帰った後、日々たくさん赤ちゃんが生まれ、お母さんと元気に退院していたその病院が、自爆テロの襲撃に遭ってしまいました。今ではもう閉鎖されてしまいましたが、その地域で唯一お産ができる病院でしたから、今でもとても胸が痛くて、お母さんたちが元気になっているかなと今でも思います。赤ちゃんの治療室で赤ちゃんも点滴などに繋がれ、赤ちゃんをお母さんが抱っこした状態で動けない中、そういう襲撃を受けてしまったという、今でもとても心が痛くて、早く回復してほしいと思っている病院の一つです。



一方イエメンは、私が行ったのは内紛が起きているときだったので、綺麗な景色はとても見られなかったのですが、内紛が起きる前のイエメンは本当に綺麗で、アラビアンナイトのような、夢のような、おとぎ話のような、砂糖細工できたお城のような、そういう風景を持っている国でした。でも病院の救急棟が空爆で破壊され、産婦人科棟も破壊されました。その産科機能の立ち直し、復興のために行ってくれということで、私は派遣されました。ここもたくさんお産があり、特にイスラム教でも非常に厳しい地域でしたので、私も髪の毛を隠して、ほとんどの女性は目しか出していないのですが、私にはそれは少し暑すぎました。他の女性はみんな普通に着ていますが、40度以上あり、50度になる日もあるぐらい暑かったです。エアコンも効かず、暑い中で私は顔を隠すのは免除され、スカーフで働いていました。



そういったところで働いていると、毎日いろいろな嬉しいことや悲しいこともたくさんありましたが、私が特に印象的だったお産が、推定40歳。推定というのは、皆さん戸籍がないので誕生日をご存知ないです。ですので、女性だと何回お産をしたことがありますかと質問して、大体15歳ぐらいからお産を始めるので、何回お産したとか、妊娠したというのをカウントしていくと、多分40歳ぐらいかなとなります。その方の場合は14回妊娠し、出産は11回で、今生き残っているお子さんが5人と非常にシビアでした。しかし、私が行った、特に紛争の難民が多かった地域では、20回妊娠されている方も少なくなく、非常に厳しいですが、こういうお母さんがたくさんいました。

私が朝病院に行きますと、そういうお母さんのお産が終わって、血まみれのベッドの上にそのまま横たわっていて、何が起きたのかな、どうして誰も助けてあげないのかな、と思っていると助産師が疲れて横で一緒に寝ているとか、いろいろな問題がありました。

そんな日々を過ごしていたのですが、どこかの国に行っても、私がとても感じたことは、非人間的なお産の文化ということがありました。必要なケアが足りなくて、遅れて命を落とすというのはもちろんありましたが、それから過剰に不必要なこと、やらなくてもいいことをされてお母さんが心身ともにとても傷ついたり、医療従事者から、尊厳を無視したような言葉や、身体的な暴力も大変心苦しいのですが、実際かなりありました。また言葉による暴力であるとか無視をされるとか、そういった扱いをお産する中でお母さんたちが受けているということもかなりありました。これは病院の中だけで起こっていることではなく、コミュニティ全体が「お産は痛くて、苦しくて、汚くて、嫌な思いをするけど、しょうがないよ。そういうものだから。」と言ってしまうという現状がコミュニティにありました。

「非人間的なお産の文化」

- 必要なケアが遅れて命を落とす
 - 不必要な医療介入を受けて心身ともに傷つく
 - 医療従事者から尊厳を無視された扱いを受ける
 - 女性、医療従事者、コミュニティにシェアされる状況の悪さの現状肯定
 - ブラジルの教育学者パウロ・フレイレ
- 「豊かな人間になるという使命を持って生まれながら、抑圧と支配を運命の様に受け入れ、“沈黙の文化”に埋没させられ、非人間化されている状態」

それをブラジルの教育学者の方が、私達は本当は「豊かな人間になるという使命を持っていながら、こういった抑圧と支配を運命のように受入れ、沈黙の文化の中に埋没させられているのだ、非人間化されているのだ。」と言った方がいました。ではそれを、人間的なお産とその助産師のケアというのをどうしたらいいのか、ということをいろいろ働いた国々で助産師さんたちと話し合いながら私はやってきました。人類として、元々哺乳類ですから、私達が

本来であれば備わっているはずの自然に産む能力を最大限に発揮すること、赤ちゃんが生まれてこようとする能力を最大限に発揮すること、人対人のぬくもりのあるケアをすること、それぞれのお母さんが赤ちゃんの人権を尊重したケアをすることなど、この当たり前のことを当たり前にできた場合、現在死亡率が言われています、妊産婦死亡というのが1日に約800人、ジャンボジェット2機分ぐらいのお母さん、それから新生児では1日7、000人もが亡くなっています。そのうちの75%は基本的なことを当たり前に提供できれば、防げる死亡だと言われています。

私はその臨床、病院の中で働くのもとても好きだったのですけれど、限界を感じたというのもあり、保健省の中でお役人である助産師さんたちと、国のプログラムをどうにか変えていけないだろうかと、セネガルとコートジボワールという西アフリカのそれぞれの国の中では保健省の助産師さんたちとトレーニングのプログラムを作り、国家の中でいろいろな研修を国のいろいろな州で展開していくことをしていました。

どうしたら人間的なお産ができるのか、というのは常に私が考えてきたことです。それには助産師の教育が大切です。卒業した後の教育というのはもちろんですけど、助産師になる前の教育というののもかなりいろいろな差がありました。



それから労働環境です。私がイエメンにいたときのことです。朝病院に行ったら血まみれのお母さんが寝ているのに、そばで助産師が疲れて寝ていました。「それは良くないのではないかな。」と私もつい言ってしまいましたが、理由を聞くと「私は24時間ずっと通し勤務をしていた。誰も交代に来ない。誰も助けてくれない。あなたが代わりにやってくれ。」と言われました。私はその方もとても辛か



っただろうなと思いました。だから決してその方だけが悪いわけではなく、その労働環境であるとか、社会の中で女性を蔑視し、蔑まれて軽んじて扱われてしまうような、そういう文化であったりとか、出産の文化であったりとか助産師自身、それから医師であったりしてもストレスへの対応能力があまり鍛えられていないと、それがお母さんに暴力となって出てしまうとか、こういったいろいろなことが複合的にあって産科への暴力が起こっているということを感じました。

私はジョーンズホプキンス大学への進学を希望しています。これから社会的、行動的な介入分野で勉強して、助産師という私のその経験だけでは乗り越えられなかったことを学び、学びを深めていきたいと思っています。

私からは以上です。どうもありがとうございました。



安齋さん: どうもありがとうございました。時間が5分ぐらいありますので、何か質問がある方いますか。

鈴木さん: 写真を見ていると、イエメンとかアフガニスタンとかそういったイスラム圏の国と、クリスチャンとかキリスト教圏の出産の仕方にあるイスラム圏の方の写真を見ていると、非常に酷く見える状況なのですが、やはり宗教的なものが関係しているところはあるのでしょうか？

中村さん: そうですね。はい。私も同じことを思いました。イスラムだからというのはいけなかもしれませんが、まず家族計画という言葉を使っはいけないということです。私は初めにかなり驚きました。計画というのは神様がするものなので、命を計画するということは私達には許されてないと現地の助産師さんが言いました。

例えば、帝王切開で大出血をしたお母さんが家族計画をせず、また次1年を経たずに妊娠して戻ってくる訳です。今度こそ死んでしまうと思うのですが、でもそういうのは男性の協力を仰ぐ以外にもう方法がないのです。イスラム教は「産めよ増やせよ」とそういう宗教ですから。あとは言葉遊びではないですけどバースペースピングという言葉を用い、お母さんの体のためにお産の間隔を空けましよう、家族計画という言葉を使うと良くないと言われたので、バースペースピングだと言って、お母さんの妊娠を命を守るために「間隔を空けてね」と伝えていました。あとは、家庭内暴力もかなり目にしました。特にイエメンやアフガニスタンでは、全身を隠していますから見えないので

すが、お産のときは他の人に見えない部分を私達は目にします、そうしたときに本当に息をのむというか、痔だらけです。それも何とかならないかと思い、私達のチームの中に心理士さんもいましたので、継続的なカウンセリングなどもしましたが、そうするとお家から病院まで来るのにお金がかかるし、時間がかかります。上のお子さんたちが7、8人とかいて誰も面倒見てくれない状況で来ないといけなく、それを継続していくのはやはり難しいです。そのときに常に私が思っていたのは、母子保健では、旦那さんなど男性こそがキーパーソンであるということです。その社会の中の宗教リーダーは大体男性ですし、病院に行ってもいいよと許可を出すのはお父さんだったり、おじいちゃんだったり、その旦那さんだったりします。だから男性がわかってくれなかったらお母さんと赤ちゃんは助からないということを、特にイスラムの中では感じていました。

安齋さん: わかりました。ありがとうございました。中村さんにもう一度大きな拍手をお願いします。中村さんはこれから国際的に活躍する方だと思いますから、中村悦子さんという名前を憶えておいて欲しいと思います。中村さん、本日はどうもありがとうございました。

会長 松本 幸男さん

中村悦子さん、どうもありがとうございました。国境なき医師団とか、テレビで見るとしかなかったのですが、こうやって実際に行かれた方にお会いできるというのは本当に貴重な体験です。ありがとうございます。「愛はどれだけ人に分けても減らない」という言葉を先ほど冒頭で話していましたが、私はもう影響されて、皆様に愛を分けまわって、これから生きていきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。グローバル候補ではなく、グローバル奨学生として学んでいただきたいと本当に心から思いました。頑張ってください。ありがとうございました。



11月3日 3Day マーチ 参加しました。



5名参加、10キロを歩きました。

11月10日 寄居町ふるさとの祭典市、参加しました。





ことしから寄居町の食文化「ホルモン焼き」になりました。
当日はたくさんのお客様においでいただきました。

米山奨学生の史楠さんにもお手伝いいただきました。

国際RC第2570地区第4グループ 寄居ロータリークラブ
E-mail yorii-rc@carrot.ocn.ne.jp

2024. 11. 13

会 長 松本 幸男

会報・雑誌委員長 加藤 祐司

N o . 10

幹 事 下条 誠

副委員長

柴崎 猛

・例会日時 毎週（水）12:30～13:30

・例 会 場 Spark(寄居町商工会)

・住 所 寄居町寄居1228

・TEL 048(581)2468

・FAX 048(581)3530